地域観光

ガーデンツーリズム

国交省、先進事例を紹介

道ガーデン街道10周年セミナーで

十勝千年の森を視察する参加者ら

国土交通省は8月26、27日、「北海道ガーデン街道」10周年記念事業としてガーデンツーリズムの先進事例を紹介する「ガーデンツーリズムセミナー」を帯広市の北海道ホテルで開催した。観光関係者ら95人が参加。北海道ガーデン街道の取り組みやノウハウの共有、全国での連携体制の確立について意見を交わした。

北海道ガーデン街道は、道の代表的な美しい八つのガーデン（①大雪森のガーデン②上野ファーム③風のガーデン④十勝千年の森⑤真鍋庭園⑥十勝ヒルズ⑦紫竹ガーデン⑧六花の森）が集中する、大雪―富良野―十勝を結ぶ全長約250キロの街道。今年で10周年を迎える同街道は、5月に制度が創設され、6計画が登録された国のガーデンツーリズム登録制度の第1号となっている。

26日にはセミナーと交流会を実施。セミナーでは、先進事例や商品化戦略の紹介、パネルディスカッションを行った。

先陣事例については、北海道ガーデン街道の林克彦代表が「北海道ガーデン街道のプロモーション戦略」、上野ファームガーデナーの上野砂由紀氏が「ガーデンツーリズムに求められるガーデンとは」、はままつフラワーパークの塚本こなみ理事長が「人々を魅了する植物園のつくりかた」をテーマに発表した。

ガーデンツーリズムの商品化戦略については、クラブツーリズムの花旅コーディネーターの舩山純氏が「クラブツーリズム『花めぐり』の旅」の実施例などを紹介。1997年のツアー立ち上げからガーデンツーリズムに携わる舩山氏は「日本全国を結ぶガーデンツーリズムは、今までとは違うコンセプトやルートでつながることで新たな魅力が生まれ、連携や協力を強めることでさらにパワーアップする」と今後の可能性を語った。

パネルディスカッションは、東京都市大学の涌井史郎特別教授がコーディネーターを務め、「ガーデンツーリズムのこれから」をテーマに議論した。

27日は、エクスカーションを実施し、十勝千年の森、紫竹ガーデン、真鍋庭園の三つの庭園を視察した。

【長木利通】

愛媛県

あかね和牛認知へ

都内5店舗で提供

県のイメージアップキャラクター、みきゃんも一押しのあかね和牛（試食会で）

愛媛県が開発したブランド牛「愛媛あかね和牛」を知ってもらおうと、同県は1日から30日まで、東京都内の飲食店5店であかね和牛と県産食材を使ったメニューを提供する。8月29日には報道関係者を集め、都内で試食会を開いた。

あかね和牛は、県産黒毛和牛に県産かんきつと亜麻仁油を与えて飼育した牛。赤身と脂肪のバランスが良い、柔らかくてヘルシーな肉が特徴で、「女性やシルバー層に食べてほしい」と関係者。

提供店舗は、SHIKOKUバル88屋コレド室町店（中央区日本橋）、四国味遍路88屋丸の内店（千代田区丸の内）、鯛めし&京風おでん 折おり（港区赤坂）、天外天（文京区千駄木）、季彩や ひで（新宿区神楽坂）。いずれも「えひめ食の大使館」に認定されている。

試食会ではSHIKOKUバル88屋の「あかね和牛のロースト 梅とラフォンドボーのソース」と四国味遍路88屋の「あかね和牛の藁焼き～今治野菜添え」が出された。店頭ではそれぞれ1680円、2380円で提供する。期間中はあかね和牛に合う地酒も出す。

あかね牛はまだ出頭数の少ない希少和牛。現在、年間出頭数は80頭ほどだが、2022年には約2倍の170頭ほどを目標としている。

竹田城跡で雲海鑑賞

列車貸し切りツアー

阪急交通

阪急交通社は1日、JR西日本の「こうのとり27号」の増結編成を貸し切り、竹田城跡（兵庫県朝来市）の早朝の雲海を観賞するツアーを発売した。1人で2座席を利用するため、1日84人限定となる。

ツアーは、こうのとり27号の増結編成を福知山で切り離し、休憩を入れた後最寄り駅となる和田山駅まで、同社が名付けた「雲海列車」として走行する。下車後は歩いて立雲峡展望台に向かう。

天気が悪く雲海が見られない場合は、竹田城跡周辺の地形を楽しんでもらう。雲海に挑戦した後は卵かけご飯定食を食べながら竹田城跡の説明を受け、入場する。

ツアー名は「雲海列車でいく 早朝の『竹田城跡』夜行日帰り」。出発日は11月8、9、15、16、22、23、29、30日で、旅行代金は大人1人1万4980円。

同社は「雲海の発生率が高い早朝に、ビュースポットである立雲峡を個人で訪れるのは困難だが、列車を利用し、安全面に配慮した体制を整えることで幅広い層の参加を可能とした」と話している。

年間宿泊者数の最下位"脱却"を

東京で観光セミナー開催

徳島県

徳島県は8月21日、年間宿泊者数最下位脱却に向けた誘客拡大を目的に「徳島観光セミナー」を東京都千代田区の都道府県会館で開催した。旅行会社、徳島県の観光関係者ら約80人が参加。観光地や着地型観光プランなど新たな観光情報をPRした。

セミナーの冒頭、徳島県商工労働観光部の香川和仁次長が「ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック、大阪万博など、国内外に徳島を発信する機会を得ている。食、歴史、アクティビティなど、新しい徳島の観光素材の発掘と磨き上げを行い、年間宿泊者数最下位からの脱却を目指す」と力強くあいさつした。

南部エリアをPRする四国の右下観光局の竹内靖事務局長

観光セミナーでは、徳島県内各地域が最新の観光情報を紹介。

県西部エリアは、にし阿波観光圏（そらの郷）が「共感で世界とつながろう！」をテーマに、地域ブランディング手法を紹介。戦略的マーケティングのキャッチフレーズ「千年のかくれんぼ～分け入るごとに、時は遡り～」のもと、農山村での文化体験などアドベンチャーツーリズムを推進し、日本一の「桃源郷」を作り上げると発表した。

県南部エリアは、四国の右下観光局が、徳島県南部エリアの観光スポットをPR。徳島駅―高知駅間の国道55号に沿った区間の鉄道、バスが3日間乗り放題の「四国みぎした55フリー切符」や、勝負の神様としてたくさんの招き猫が奉られる「お松大権現」、新たな体験メニューとして「オリジナル花火作り体験」などを紹介した。

県東部エリアは、ツーリズム徳島が水都徳島の新町川沿いなどで食べ歩きを行う「徳島・庶民の味めぐり」、鳴門うずしお観光協会が大鳴門橋管理通路を渡る「うずしおウォーキング」、イーストとくしま観光推進機構が川から町を眺める「徳島じょうるりクルーズ」を推した。

また、旅行商品造成支援として助成制度を説明した。このほか、徳島県関係者と旅行会社担当者による意見交換会や懇親会が行われた。

徳島県は、県外からの誘客促進や宿泊者数の増加に向け、「阿波おどり」だけでない徳島の魅力を発信。アニメとコラボした企画や新たなアクティビティの開発を推進している。

体験型観光が日本を変える

〈134〉

体験教育企画社長　藤澤　安良

アマゾン流域で大規模な火災が発生し、四国全域に匹敵するぐらいの広大な面積が焼失しつつある。対岸の火事ではなく、地球の反対側の火事ではあるが、絶滅危惧種を含む稀少動植物の宝庫でもあり、地球環境や生態系に及ぼす影響は極めて大きいものがある。

日本では北九州地方を中心に、数年前からよく耳にする「線状降水帯」による大雨や洪水が発生している。多分に地球温暖化との関係が論じられるようになってきた。

原発の放射性物資もプラスチックゴミも温暖化も、地球上で起こることのほとんどは地球で解決しなければならない。国を代表する政治家が、京都議定書もパリ協定もないがしろにしたり離脱したりするような動きがあることは実に情けない。

人間は目先のことや直接感じたりする状況には対応するが、未来や先の話は重要視しない傾向がある。地球環境問題は1国の利害や選挙の票のために揺らぐような問題であってはならない。隣国や友好国との間でも、言い分は自分中心が多すぎる。

全国各地に足を運んでいるが、目先のことしか考えていないのは国内でも同じである。さらには、現状の課題が山積しているにも関わらず、それすら解決のために向かわない現状維持派の首長が多い。

現状維持はほぼ後退を意味し、未来の絶望につながる。

環境と田舎への旅

方は、活力を呼ぶために何をすべきなのか。答えは一つ。増える訪日外国人も短時間の通過型では経済に跳ね返る額は軽微であり、旅の目的地となり、体験プログラムや宿泊飲食、あるいは物産と後に物流につながる、体験滞在交流型の観光振興に他ならない。

この分野は、国内旅行においても同様である。リピーターになりにくい名所旧跡、神社仏閣、風景は行きつくされた感があり、旅の募集に苦戦することになる。

しかし、今まで行ったことがない、泊まったことがない、知られていない田舎に隠れた魅力が山積みになっている。体験交流型の観光資源は、豊かな自然を「ゆっくりと時間」をかけて楽しむこと、農林水産業などの食料生産現場で直にその「作業」に関わり、最も鮮度が良いおいしい「食」をいただくことである。

高齢化の進む田舎で今学びたいことがある。仕事の仕方にも、食事の作り方にも、伝統工芸にも、高齢者の経験に裏打ちされた「技と匠と知恵」があり、それらを人は学ぶことになる。「人の生き様」まで観光資源となる。

日本の田舎の価値を訪日外国人は気付きだしている。今こそ、日本人が日本の田舎の良さを理解すべきである。その先に、東京一極集中から交流人口の拡大、定住移住につながる道が見える。旅行会社も机上の商品造成では未来が開けない。地方創生は田舎への旅から始まるのである。

「日本一を味わって」

福島県 東京で「酒まつり」

鏡開きをする内堀知事（中央）ら関係者

福島県は8月29、30日、東京のJR新橋駅前で同県産の日本酒をPRするイベント「ふくしまの酒まつり」を開いた。県内52の酒蔵が約150の銘柄を持ち寄り販売。特設会場で仕事帰りのビジネスマンらが味わった。初日のオープニングイベントには内堀雅雄知事が参加し、「実際に福島に来て、地元の食とともに味わってほしい」と呼び掛けた。

内堀知事は「作り手の愛情がこもった酒を存分に味わってほしい。秋は温泉、紅葉が楽しめる季節。福島に来て、疲れた心と体を癒やしてほしい」とアピール。また、前日発生した九州北部豪雨に触れ、イベントの収益金を全て被災地に寄付する意向を述べ、会場から大きな拍手を浴びた。

福島県の日本酒は全国新酒鑑評会で金賞受賞数が7年連続日本一になるなど、味の良さに定評がある。「県内の蔵元が受賞のための研究会を開いており、それが影響しているのでは」と同県観光局県産品振興戦略課の担当者。

福島県の酒まつりは10月26、27日にもJR福島駅前で初開催される。

観光振興などで連携協定を締結

香川県とJAL

香川県は観光振興などを目的に、日本航空（JAL）と包括連携協定を結んだ。これまで、「さぬき讃フルーツ」のブランド化への取り組みなどを通して県産品の振興に努めてきたが、協定締結でさらに緊密な相互連携を行う。

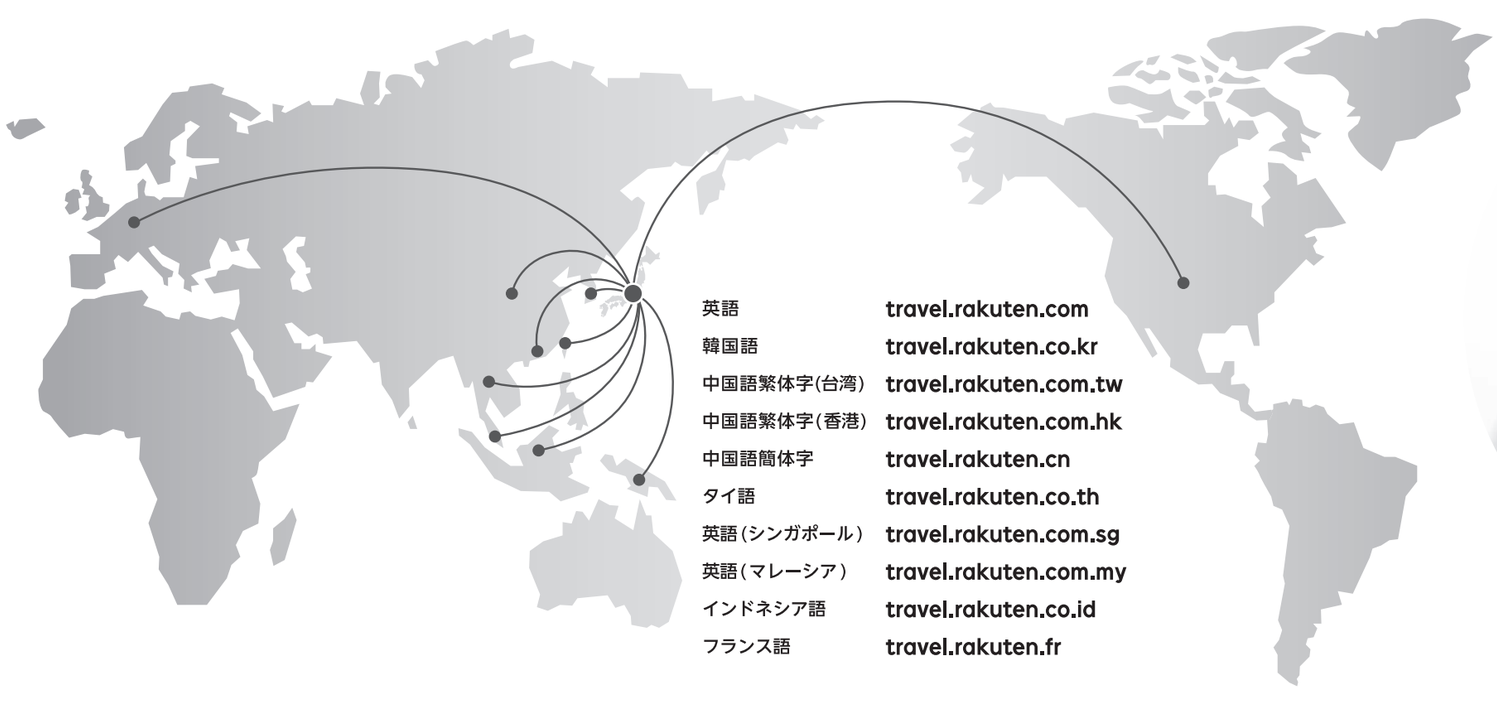
協定は観光のほか、交流人口の拡大、文化・県産品の振興など計4項目。

メインは観光振興を通じた地域活性化で、JALのインバウンド向け旅行商品「JAL訪日ダイナミックパッケージ」を活用し、海外から観光客を誘致する。

交流人口拡大では、9月から高松―羽田線で「乗継割引28」の対象路線を拡大。北海道や東北、北陸などと香川が行き来しやすくなるという。

文化振興では、「瀬戸内国際芸術祭2019」の旅行商品を造成するほか、機内誌で香川の情報を掲載する。

Rakuten Travel
おもてなしプラットフォーム、世界へ。
宿泊プランの多言語化、無料サポート実施中



英語	travel.rakuten.com
韓国語	travel.rakuten.co.kr
中国語繁体字(台湾)	travel.rakuten.com.tw
中国語繁体字(香港)	travel.rakuten.com.hk
中国語簡体字	travel.rakuten.cn
タイ語	travel.rakuten.co.th
英語(シンガポール)	travel.rakuten.com.sg
英語(マレーシア)	travel.rakuten.com.my
インドネシア語	travel.rakuten.co.id
フランス語	travel.rakuten.fr